

17「ラザロは墓の中に入れられて、すでに四日たっていた」

- ・39節のマルタの発言に見られるように、もうすでに腐敗が始まっていたと考えられた。つまり、完全にラザロは死んだものと家族や周囲の人々には思われていた。

18「十五スタディオン」

- ・約3km（新改訳欄外注）

19「大勢のユダヤ人が来ていた」

- ・大勢のユダヤ人が来たということは、エルサレムからもユダヤ人が来たのだろう。

21「もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに」

- ・マルタはどのような思いから言ったのだろうか？

22「今でも」

- ・ラザロが死んだ今も神はイエスの願いを何でも聞いてくださると信じている。

24「終わりの日のよみがえりの時に」

- ・マルタは終わりの日のよみがえりだと理解している。終わりの日の復活を信じるのはパリサイ派の信仰の特徴（サドカイ派は復活を信じなかった）。

25「わたしはよみがえりです」

- ・イエスが死からよみがえる者であるということ。

26「生きていてわたしを信じる者はみな、永遠に決して死ぬことはありません」

- ・キリストが再臨されるときに生きているキリスト者たちを指すのであろう。彼らは生きているうちに再臨の主に出会うので、この地上での死を見ることもないということか。

27「はい、主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストであると信じております」

- ・ペテロの信仰告白（6:69）と類似。
- ・これまで（8-10章）ユダヤ人はイエスに彼がキリストであるかどうかを尋ねてきた。イエスは自らの言動がそのことをすでに証ししてきたと語り、さらに、父なる神と一つであると言われた。ユダヤ人はイエスをキリストだとも、神の子だとも結局信じなかったが、マルタはイエスをそのような者だと信じていると告白している。
- ・12章では妹のマリアが香油注ぎを通してイエスをメシアだと告白する。